

ジェンとジーンが、試験委員会のティム・バース副委員長を招いて、難関のアクチュアリー試験に合格する秘けつを聞きます。

試験合格の秘けつ — 出題者によるガイド

試験に合格するには、大学卒業生がすでに持っているスキルで十分です。では、受験者はなぜそんなに苦労しているように見受けられるのでしょうか。原因は、その科目を完全には熟知していないこと、受験テクニックに問題があることの二つだと思います。第一の点については私の出る幕はありません。試験の後期段階では特にですが、懸命に勉強し、受験科目を中心に幅広く本を読むようにと励ますだけです。

試験に合格することはそれ自体がスキルであり、学ぶ必要があります。受験者が実力に見合っただけの点を取れない唯一の理由は、問題を読むことができない、または読もうとしないことです。あるいは、問題を読んだ場合でも、出題者が意図したはずと思い込んだ問いかけに答えようとしてしまうことです。このことは、主に後半の試験科目について言えることですが、コア・テクニカル（CT）の答案についても見られます。

出題者は、求める解答が明白であるだけでなく、設問の唯一の正解であるようにするために、長い時間をかけて各問題の細かな表現を組み立てます。例えば、費用分析の実行方法について書くことを受験者に求めるとすれば、「・・・企業が費用分析の結果をどのように利用するかを説明せよ」という聞き方はしません。

長い設問はすべて、4つの要素から成る共通の構造を持っています。それは次の通りです。

1. 場面を設定する前書き
2. 命令動詞。「列挙せよ（list）」、「概要を述べよ（outline）」、「決定せよ（determine）」など、必ず問いかけの文の最初に現れる単語。
3. 出題者が求めることの記述
4. 配点

成功の見込みが低い受験者は、3番目の要素の主題だと思われる事柄を見つけ出して、それについて知るすべてのことを書こうとします。その結果、往々にしてほとんど点数をもらえず、多くの時間を無駄使います。設問の4つの要素全部が重要なのです。

前書きの情報は設問で使われることが意図されています。例えば、多国籍企業の英国の従業員に対する年金給付制度であると書かれていたとすれば、この事実は正解と関連性があります。受験者は、長期間海外に派遣される従業員について検討する必要があるかもしれません。出題者は、前置きに関係の事項を入れないように努めています。

命令動詞は非常に重要です。特別な規約があるわけではなく、それらの単語は通常の英語の意味で使われています。「列挙せよ (list)」とは並べ挙げることであり、各項目について短い説明を加えることではありません。「記述せよ (describe)」では通常、プロセスに言及しているのに対し、「論じよ (discuss)」では、コア・リーディング (core reading) の丸写しを越える広い視点と高次のスキルが求められます。「概要を述べよ (outline)」の解答は、「論じよ」の簡略版です。「計算せよ (calculate)」では数値による解答が要求されるのに対し、「決定せよ (determine)」の解答は通常、「計算せよ」の拡張版で、途中の明確な手順が求められています。

書き始める前に、出題者が求めていることを完全に明確にしておくことが重要です。非常に一般的な種類の設問は、具体的な、そして時として通例でない文脈で基本的な技術を問うものです。例えば、通例でない給付や選択権を伴う保険商品の価格決定が問われることが考えられます。受験者は、具体的な状況を見捨てて一般的な問題に答えるか、あるいは、具体的な状況にだけ集中して一般的な見解を示さないかのどちらかに偏る傾向があります。

最後に、配点は、それぞれの設問に費やすべき時間、したがって、出題者が求める詳細さの程度の目安になります。配点3点の問題は、3ページにわたって詳細に答案を書くには値しません。時間を使いすぎるよりは、特に、難しい計算問題に苦闘し続けるよりは、捨てる覚悟で別の問題に進んだ方がたいていは有効です。必要なら、またその問題に戻ればよいのです。

以上述べたように、受験のテクニックを改善するために、私は、次の6つの簡単な手順を勧めます。

1. 問題を読む
2. 問題を読む
3. 解答のプランを立てる
4. 問題を読む
5. 解答を書く
6. 問題を読む

これまで述べたポイントはどれも、試験分野に関して実際に知ることの埋め合わせにはなりませんが、知識のある受験者が不合格になるのではなく、合格する手助けになってくれればと思っています。幸運は努力の代わりにはなりませんが、やはり幸運をお祈りします。

ティム・バース氏は、科目 CA1 が 2005 年に創設された時からの主任問題作成委員でしたが、現在は退任しています。それ以前は、生命保険専門チームのメンバーでした。過去 22 年間、毎年、受験者の答案の採点に携わってきました。